

馬のしゃっくり

門別診療所 水口悠也

今年は例年になく暑い日が続きますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

私事ですが、昨年10月に静内診療所から門別診療所の方に異動いたしました。静内地区の方々には、異動前にご挨拶が叶わなかった方もおられるので、この場を借りて改めてご報告させて頂きたく思います。

さて、今回は馬のしゃっくりについて考えることで、この時期に知っておきたい暑熱ストレスについて理解を深めていただければ幸いです。

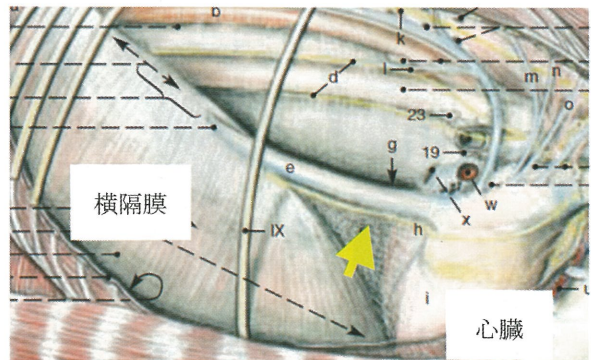
しゃっくりとは横隔膜とひばら部分が心臓の動きに合わせて同時に収縮している状態を指します。このため、医学的には synchronous diaphragmatic flutter (同期性横隔膜粗動) と呼ばれています。しゃっくりはそれ自体が問題になることはありません。しかし、起こるメカニズムに着目することで見落としがちな問題が顕在化する可能性があります。まずはしゃっくりが起こるメカニズムについて考察します。

先に述べたように、しゃっくりには横隔膜の収縮が関与していますが、その収縮の有無を司るのが横膈神経です。横膈神経は頸神経から出発し、横隔膜に向かう途中に心臓の近傍を通過します(図中の黄色矢印参照)。一般的に神経の活動性は体内のミネラルバランス(主にナトリウム、カリウム、カルシウム、マグネシウム)によって調節されています。生体内ではミネラルバランスを一定に保つための調節機構が働いてい

るため、平時であれば神経の過度の活動は起こりません。しかし、何らかの原因でこのミネラルバランスが崩れ、神経の活動性が上昇すると、心臓の収縮に伴い横膈神経が異常に刺激され、心臓の動きに合わせた横隔膜の収縮が起こります。これがしゃっくりです。すなわち、馬がしゃっくりをしているとき、その背後には体内のミネラルバランスの異常が潜在している可能性があります。と言い換えることができます。

時期柄、日中の暑熱ストレスが非常に大きくなっています。暑熱ストレスを受けると発熱、頻呼吸とともに、ミネラルバランスの異常を伴う脱水が生じ得ます。脱水に加えて痙攣や多臓器不全を併発することもあり、治療せずに放置すると最悪死に至る場合もあります。治療としては全身のアイシング、補液による脱水の補正や解熱剤の使用などの対症療法を中心に行いますが、何より早めの治療が肝要です。

以上のことから、しゃっくりをしている馬では健康そうに見えてもミネラルバランスの異常が内在していることがあります。しゃっくり自体は問題ではありませんが、しゃっくりを症状の一つとしてとらえ、食欲がないなど普段と違った様子が見られたら、早めにご相談ください。



馬の胸部解剖図

(Anatomy of the Horse 5th, revised editionより引用)